

労働政策フォーラム
多様化する若者の初期キャリアの現在
基調報告
親子で考える就職とキャリア

労働政策研究・研修機構（JILPT）
副統括研究員
池田心豪

2025年7月18日-24日配信



The Japan Institute for Labour Policy and Training

2025年7月18日-24日 労働政策フォーラム「多様化する若者の初期キャリアの現在」配布資料

自己紹介

【略 歴】 慶應義塾大学文学部社会学専攻卒業、東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程単位取得退学、博士（経営学）（法政大学）。2005年から労働政策研究・研修機構（JILPT）研究員。2023年10月から現職。

【主な研究論文】 「介護期の退職と介護休業——連続休暇の必要性和退職の規定要因」 『日本労働研究雑誌』 597号, 2010年、“Supporting working carers’ job continuation in Japan: prolonged care at home in the most aged society” International Journal of Care and Caring, Vol.1, No.1, 2017

【主著】 『介護離職の構造 育児・介護休業法と両立支援二一ズ』（労働政策研究・研修機構 2023年、令和5年度労働関係図書優秀賞受賞）



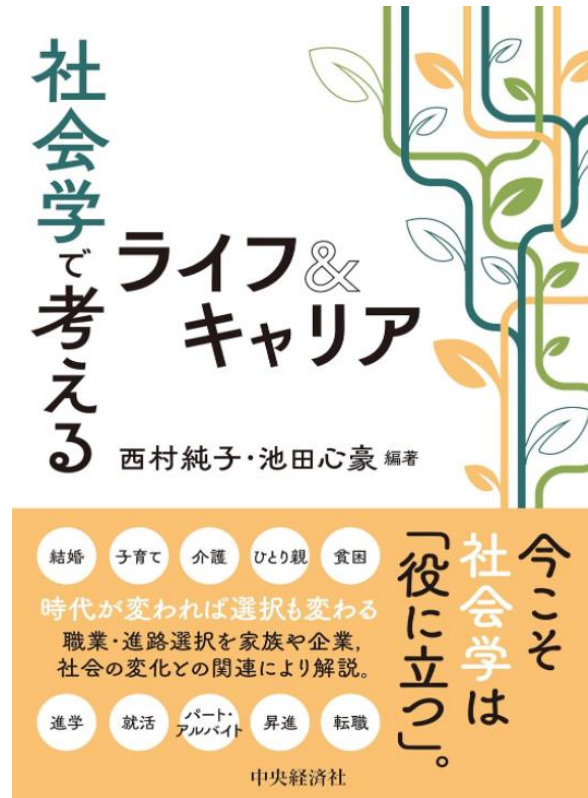
主な著作



『労働・職場調査ガイドブック—多様な手法で探索する働く人たちの世界』
(中央経済社、2019年、2970円)



シリーズ ダイバーシティ経営
『仕事と介護の両立』
(中央経済社、2021年、2750円)



『社会学で考えるライフ&キャリア』
(中央経済社、2023年、2860円)



『人的資源管理—事例とデータで学ぶ人事制度』 (ミネルヴァ書房、2025年、3080円)

本日のテーマ



基調報告の内容

- I 本フォーラムの趣旨
～サービス業での就職とキャリアを考える

- II サービス業の多様性
～女性の就業を例に

あなたならどうする？（その1）

私は就職活動中の大学4年生。近年業績が伸びている中堅IT企業の最終面接まで進んでいる。仕事のやりがいもありそうだし、テレワークで働けるし、とても魅力的に感じている。しかし、両親は今の企業に賛成していない。「将来のことも考えて、安定した大企業も受けておいたら？」と言ってくる。私は今の会社から内定が出たら就活を終えても良いと思っているが、それで良いという確信もない。

『社会学で考えるライフ&キャリア』第1章p.8を元に作成

社会学で考える

ライフ&キャリア

西村純子・池田心豪 編著

結婚 子育て 介護 ひとり親 貧困

時代が変われば選択も変わる

職業・進路選択を家族や企業、
社会の変化との関連により解説。

進学 就活 パート・アルバイト 昇進 転職

今こそ
社会学は
「役に立つ」。

中央経済社

考えてみよう

○親の立場で考えてみましょう

子どもが魅力を感じている企業は、今は中堅だが、業績が伸びてる。でも、不安に感じて別の大企業を勧めたくなる。子どもが望む企業に就職すれば良いと言い切れない。なぜでしょう？

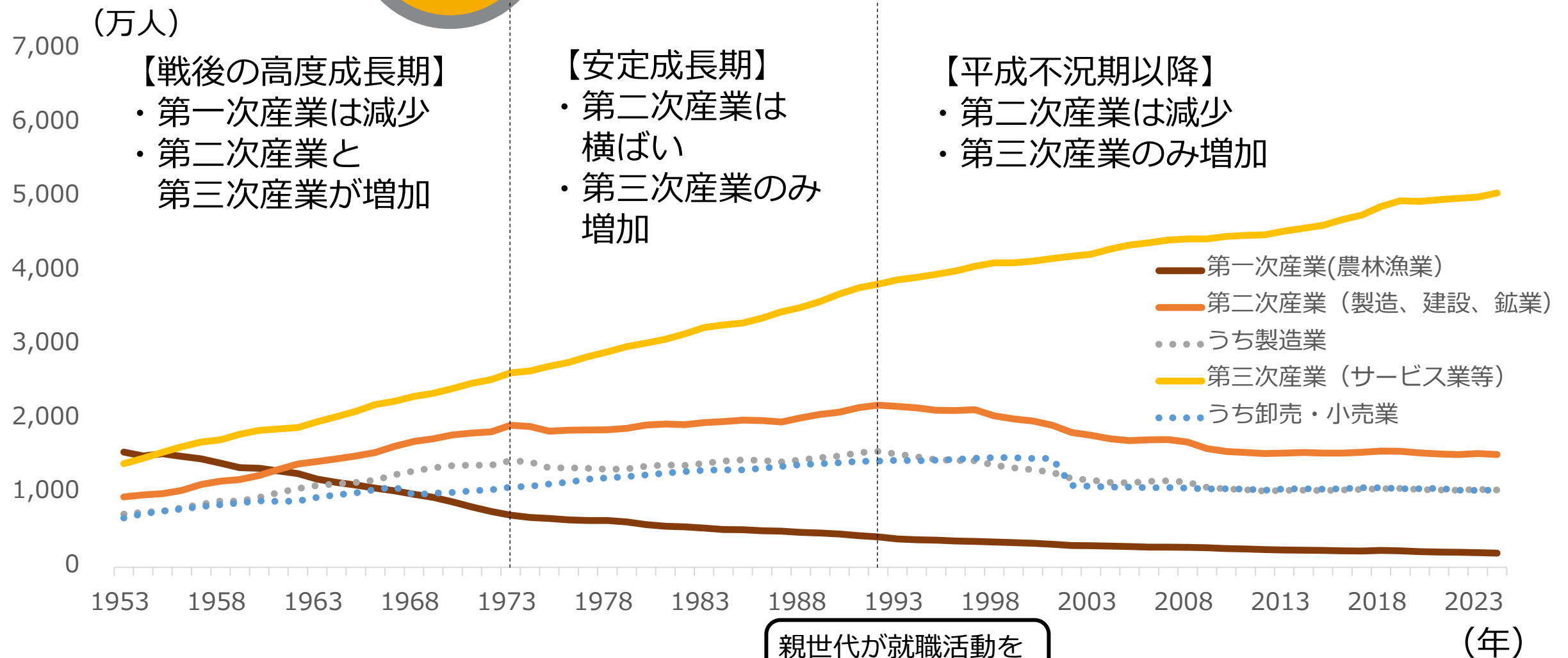
○子どもの立場で考えてみましょう

親がいう安定した大企業の魅力もわかる。でも、親が不安に思う会社に魅力を感じるのはなぜでしょう？親がいう将来の不安とはどういうことでしょうか？

「大企業の安定」とは？

- ・ 長期的な雇用保障（長期雇用）
 - ・ 年功的な所得保障（年功賃金）
 - ・ 手厚い社会保障（健康保険・年金）
- ⇒豊かな経済生活の基盤
- …戦後の高度経済成長期に広がった仕組み
 - = 製造業が雇用吸収力をもっていた時代には、
多くの若者に安定した生活を提供できた
- ⇒平成不況期以降、製造業の就業者数は長期的に減少傾向

産業別就業者数の推移



親世代が就職活動をしていた時代(?)

多様な実態のサービス業

- ◎多くの子どもにとっては、就業者数が増加傾向にある第三次産業（広義のサービス業）は現実的な就職先。
 - ◎しかし、サービス業の内実は多様。製造業に比べて労働市場の実態がつかみにくい。
 - = 親にとっては、どうなっているのか訳が分からない？
 - 子どもはわかっている？断片的な情報で判断していない？
- 「どうしたいか」「どうしてほしいか」の前に
「どうなっているか」を正確に理解しよう！というのが
本フォーラムの趣旨



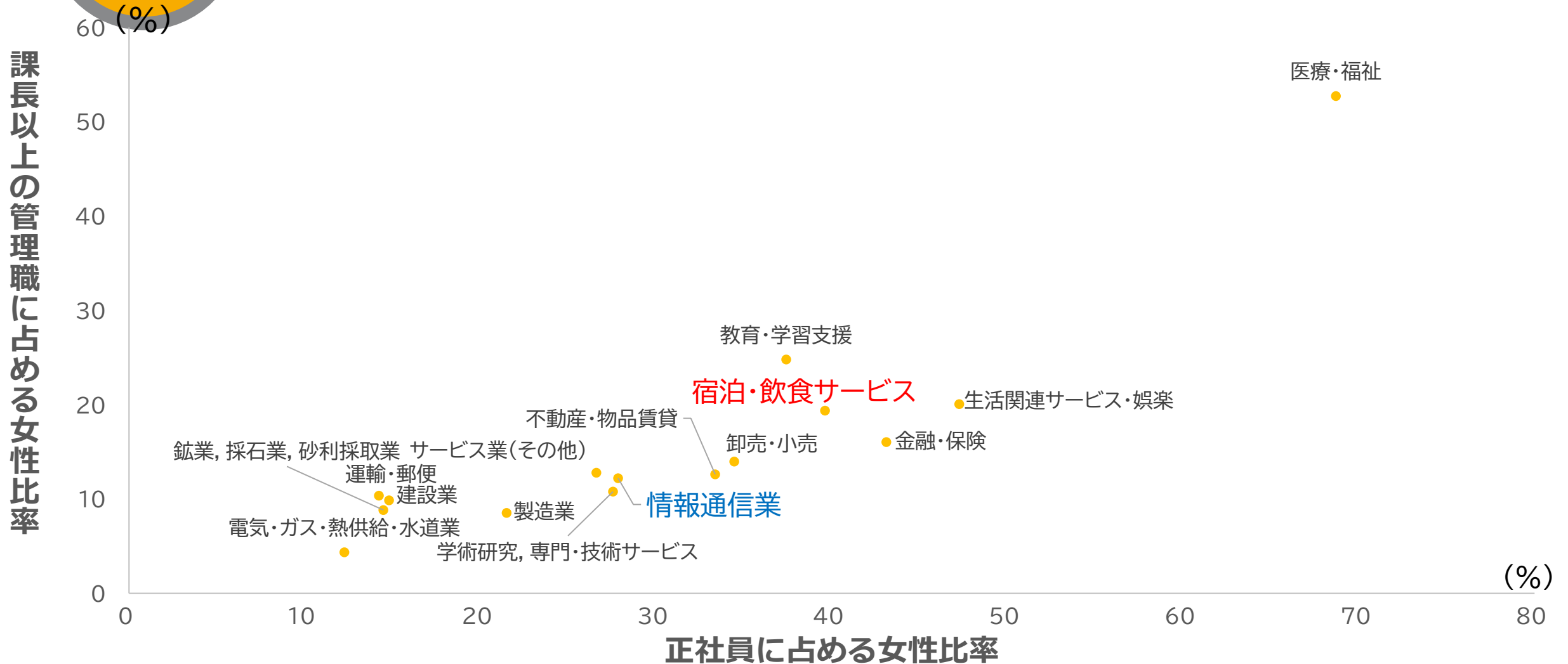
あなたならどうする？（その2）

私は大学4年生の女性。2つの会社から内定をもらっているが、どちらにも魅力を感じており、どちらに行こうか悩んでいる。

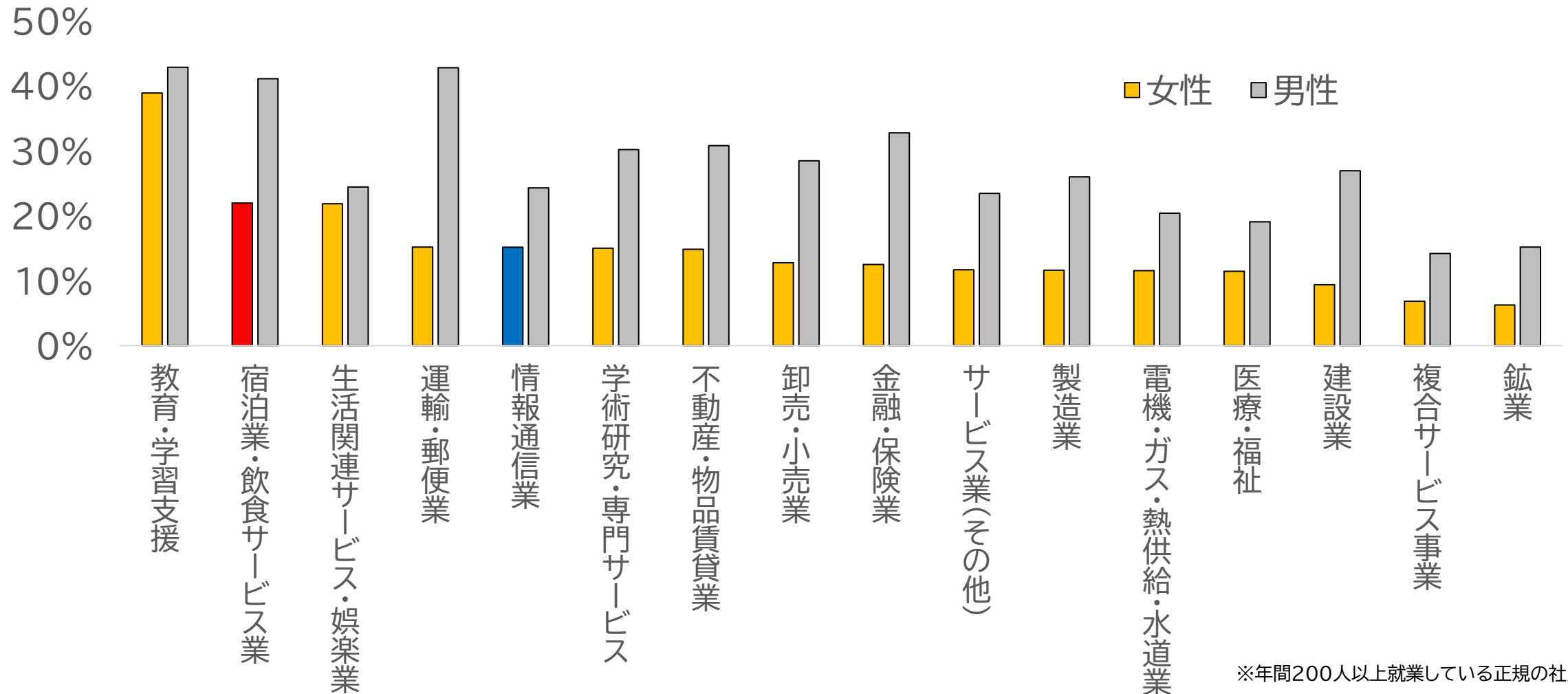
1つはリゾートホテル。接客やイベントの企画・運営をする仕事。女性が多く、採用試験の面接官も女性だった。

もう1つは情報システム企業。システムやウェブアプリを開発して販売する仕事。女性は少ないが、最終面接でこれからは女性にも活躍して欲しいと言われた。

産業別 正社員の女性比率×女性管理職比率

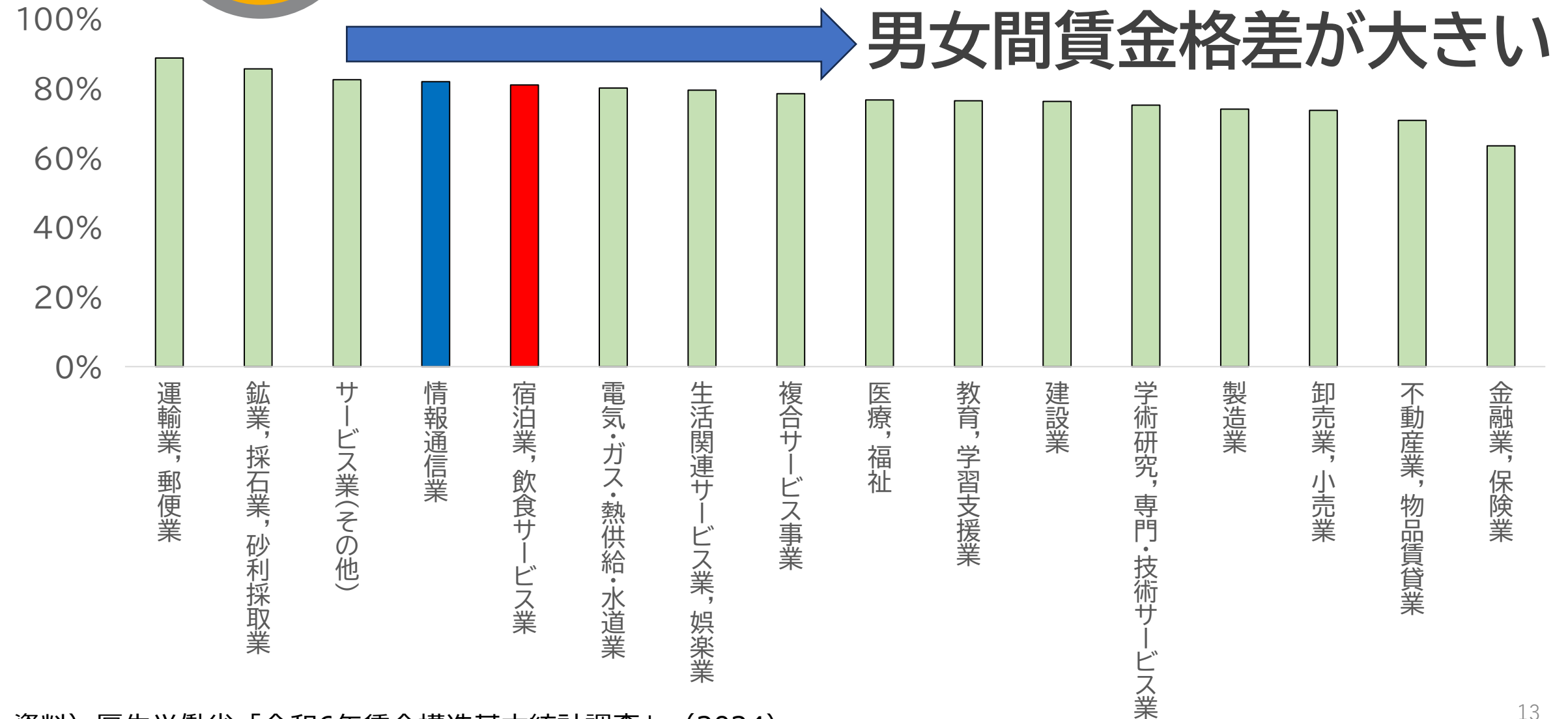


産業別 正規雇用者に占める週50時間以上労働の割合

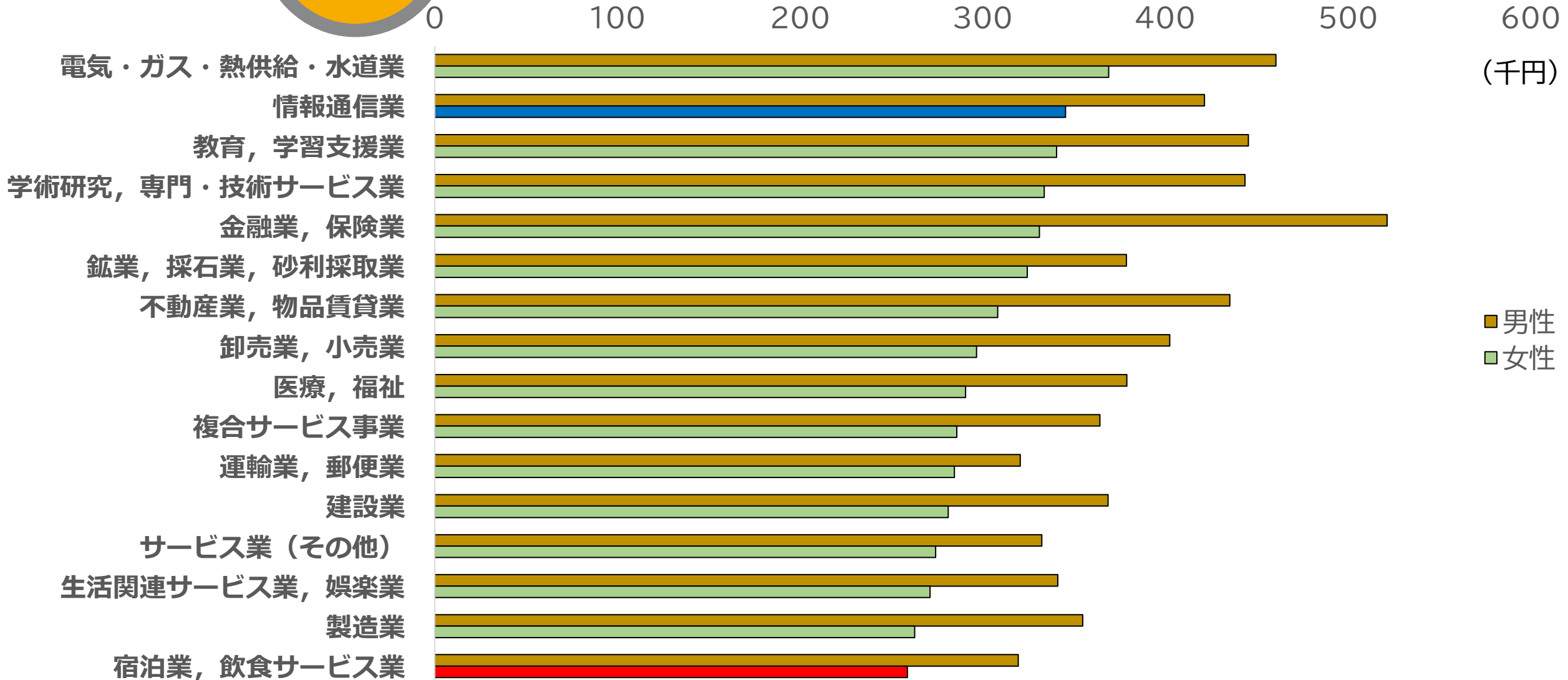


※年間200人以上就業している正規の社員・職員

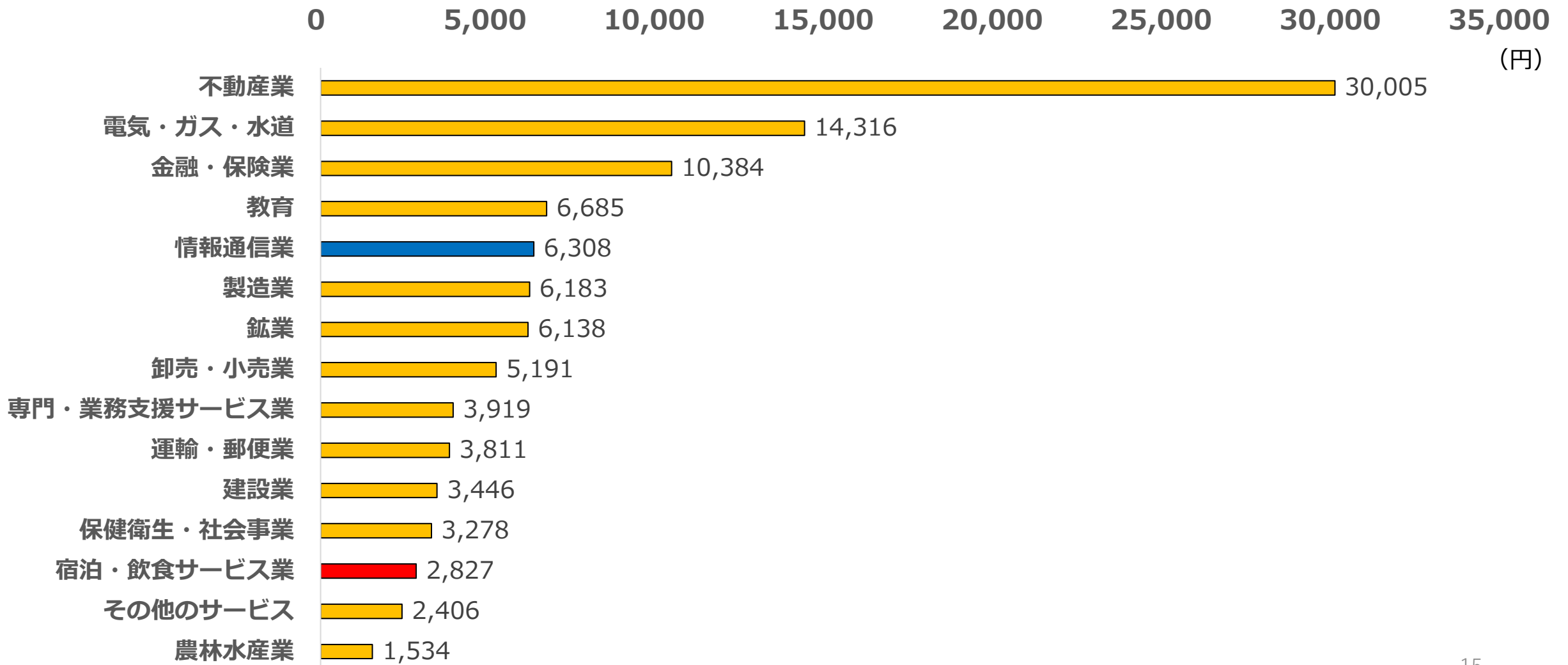
正社員の賃金の男女比（女性／男性）



産業別 男女別 正社員の賃金



就業1時間当たり労働生産性



資料) 日本生産性本部「主要産業の名目労働生産性」(2023)

まとめ

多くの若者にとって製造業よりサービス業の方が現実的な就職先。
しかし、サービス業の内実は多様であり、実態がつかみにくい。

=データをみても一長一短

・・・子どもは、魅力的な側面ばかり見ている？

親からみると、否定的な部分ばかりが目につく？

⇒サービス業の労働市場をどのように理解すれば、
後悔のない就職とキャリア選択ができるか？

⇒岩脇報告とパネルディスカッションへ